

一般社団法人 CEPA ジャパン

定時社員総会

# 議案書

日時：2020年6月22日（月曜日）16時00分～17時30分

会場：オンライン Zoom

○開会 代表理事あいさつ

第1部 総会

1. 総会開会の辞
2. 定足数の確認
3. 議長選出
4. 議案審議

第1号議案 2019年度 事業・活動報告

第2号議案 2019年度 収支決算報告

第3号議案 2020年度 事業・活動計画

第4号議案 2020年度 予算計画

5. 議長退任

○閉会

## 第1号議案 2019年度 事業・活動報告

### 1. 事業展開方針

第10期は、次のように位置付けて活動を展開した。

#### 【事業展開方針】 ■SDGs 時代にむけて

CEPA ジャパンは、2011年創設から本年度、記念すべき第10期を迎える。これまでを振り返ると、法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」、そして総仕上げとして2020年の最終年に向け、さらに2030年SDGsの目標年に向けてパワーアップしてきた。それを受けて今年度と来年度の2年間で、これまでの総決算と次の「国連生態系回復の10年」への橋渡しを進め、有終の美を飾っていく。

#### <事業内容>

2019年度はCEPA ジャパンの2020年の最終年に向けてのラストスパートの一年として、以下の事業について加速度を挙げて展開した。

#### <1> CEPA ジャパンの組織基盤強化

##### 1. 事務局体制の強化

当法人への期待に応えるために、「地球と未来の環境基金」のご協力で設置した事務局は、6年目を迎え、引き続きの体制で生物多様性アクション大賞の事務局としても活動の中心に担った。また、外部の公認会計士のご指導により財務基盤強化が一層進んだ。

##### 2. 支援者組織化

会員数は、個人・法人あわせて、20名である。

2020年3月31日現在の会員数は以下のとおりである。

運営会員 14名      賛同会員(個人) 5名      賛同会員(団体) 1名      賛助会員 0名

##### 3. 広報

#### 3-1. CEPA ジャパンのオフィシャルサイト

2016年にリニューアルしたサイトで、さらに国内の生物多様性の事例紹介などの情報発信に努めた。

<http://cepajapan.org>

#### 3-2. 生物多様性アクション大賞の運営

生物多様性の先進事例の収集を図るため、応募についての情報発信を行い、各地のメディアに掲載された。また自然保護関係者やCSR担当者・一般来場者が多く集まるエコプロ展にあわせて、東京ビックサイトの会場で各賞の授賞式を開催。大賞受賞者はエコプロ展での特別ブースでプレゼンテーション説明を実施した。

<http://5actions.jp/award2019/>

#### 3-3. 「いきものぐらし」のサイト

生物多様性 5 つのアクションをテーマに生物多様性に貢献している企業事例などを紹介して、一般消費者が選択可能な情報を整備。開設以来、CEPA に関するホームページを充実するとともに、英文対応のサイトも充実を図り、CEPA に関する情報発信に努めた。

<http://5actions.jp> 「英文対応のサイト」 <http://5actions.jp/en/>

#### 3-4. 紹介リーフレットの発行

身近な生物多様性の事例について感じてもらえるように制作した「CEPA さんぽリーフレット」は、「日常の行動で恒に生物多様性に配慮」できるための行動変容を促すことを目的にしたものであった。観察会で配ったりして、街中歩きなどで身近な自然とふれあう際のガイドツールとして活用を図った。

<http://cepajapan.org/column/2032/>

#### 3-5. 国内の事例収集

CEPA ジャパンの活動について、国内の事例収集を中心に行い、情報発信に努めた。

<https://www.facebook.com/groups/green.forum.asia/>

#### 3-6. いろとりどりサイト

生物多様性に配慮した食品などを選択して購入できる情報紹介ポータルサイト。

<http://iro-toridori.info/>

#### 3-7. facebook ページ

SNS での情報発信に努めた。

和文 <http://www.facebook.com/cepajapan.org> 英文 <http://www.facebook.com/CepaJapan>

### 4. 総会・理事会の開催

#### 【総会】

2019 年度の通常総会は 2019 年 6 月 17 日(月)に、ファンドレックス会議室で開催した。2018 年度事業報告と決算を承認、2019 年度計画と予算、理事の選任について決議した。

なお、総会終了後は、会場を「北京ダック楽楽屋」に移して、第 2 部として交流会パーティとして開催した。

#### 【理事会】

また、2019 年度の理事会は以下の 1 回を開催した。

#### ●2019 年 5 月 13 日理事会(ファンドレックス会議室)

総会の審議に付与すべき事項について審議、総会議案として上程した。

・ 2018 年事業報告・決算、2019 年事業計画・予算

・ 合わせて今年度の事業計画の運営体制に関することを審議した。特に子どもゆめ基金に関すること、今年度最終となる生物多様性アクション大賞の運営、次年度への橋渡し等を協議した。2020

年の最終年の向けての取り組みについて、SDGs 時代への活動の継承などが話し合われた。

## 5. その他

財政基盤強化をはかり、特に自主財源の獲得に注力した。特に生物多様性アクション大賞は年間を通じての取り組みになるため、企業との連携を深めた。また組織基盤安定のため、地球環境基金からの助成を受けて、生物多様性の普及啓発を行った。

### < 2 > 普及啓発事業

#### 1. 生物多様性アクション大賞の開催

##### 1-1. 応募状況と受賞団体

生物多様性アクション大賞は「国連生物多様性の 10 年」の日本における広報活動の一環として 2013 年にスタートし、7 回目の今年最終回を迎えた。特に一昨年度から設定された環境大臣賞、農林水産大臣賞については授賞式当日に行われる 5 部門優秀賞受賞者によるプレゼンテーションを経て大臣賞が選定された。

生物多様性アクション大賞は、生物多様性の主流化を目指して、「国連生物多様性の 10 年日本委員会」が推進する「MY 行動宣言 5 つのアクション」に基づき、全国各地で行われている個人・団体の活動を表彰するもので「たべよう部門」、「ふれよう部門」、「つたえよう部門」、「まもろう部門」、「えらぼう部門」の 5 部門で優秀賞を選定する。また 2015 年に国連加盟国全会一致で採択された SDGs（2030 年までの持続可能な開発目標）に貢献する団体を表彰する SDGs 賞をはじめ、助成・協賛各社の特別賞などが設定されている。2015 年度より国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）の主催事業となったが、CEPA ジャパンが主導して、引き続き事務局の機能を担った。今年度は全国から総数 91 の優れた活動が応募され、一次審査、二次審査を経て、各賞の発表をウェブ上で行った。12 月 7 日の受賞式典で環境大臣賞、農林水産大臣賞が表彰された。

##### ◆ 審査結果

<http://5actions.jp/award2019/result.html>

##### [環境大臣賞]

【つたえよう部門】ノータッチサンゴ エコガイドカフェ（宮古島市下地与那覇）

##### [農林水産大臣賞]

【たべよう部門】伝統食材「あかじゃが」「アワバタダイズ」を活用した地域振興プロジェクト  
群馬県立勢多農林高等学校 植物バイオ研究部（群馬県前橋市）

##### [優秀賞]

【ふれよう部門】里山保全 川名里山レンジャー隊（神奈川県藤沢市）

【まもろう部門】サシバの里づくり オオタカ保護基金（栃木県芳賀郡市貝町）

【えらぼう部門】循環型環境ストレスフリーを実現したタオル生産プロセスの構築 株式会社スマイリーアース（大阪府泉佐野市）

##### 特別賞

【復興支援賞】網地島ふるさと楽好 網地島ふるさと楽好（宮城県石巻市）

【グリーンウェイブ賞】間伐材を活用した「木のストロー」普及活動（ウッドストロープロジェクト） 株式会社アキュラホーム ウッドストロープロジェクト（東京都新宿区）

【セブン-イレブン記念財団賞】荒尾干潟の生物多様性研究とアウトリーチ活動 熊本県立岱志高等学校理科部（熊本県荒尾市）

【SDGs 賞】ミツバチと未来へ繋ぐ、持続可能なまちづくり～なごや文化のみちミツバチプロジェクトの挑戦～ 愛知商業高等学校ユネスコクラブ（愛知県名古屋市）

#### 【審査委員賞】

多自然川づくりを通じた生物多様性の保全と地域づくり 上西郷川日本一の郷川をめざす会（福岡県福津市）

里地里山，里川の生物多様性保全プロジェクト 環境ネットワーク「虹」（福岡県福津市）

気象キャスターによる写真展「天気のみカタ、自然のみカタ」 特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク（東京都台東区）

障害者と共に育む食用薔薇 社会福祉法人埼玉のぞみ園 深谷たんぼぼ（埼玉県深谷市）

トンボ 100 大作戦 ～滋賀のトンボを救え！～ 生物多様性びわ湖ネットワーク（滋賀県）

「里山物語」で「国連生物多様性の 10 年」に取り組み続ける 10 年間 中越パルプ工業株式会社（東京都中央区）

登米市の伝統野菜を育てよう 登米市立米谷小学校（宮城県登米市）

なごやの生物多様性保全活動 なごや生物多様性保全活動協議会（愛知県名古屋市）

「みんなの潟学ー越後平野における新たな地域学ー」の出版 新潟市（新潟県新潟市）

## 1-2. 授賞式

<http://5actions.jp/award2019/ceremony.html>

【日時】2019 年 12 月 5 日（木）13:30—17:00【場所】東京ビックサイト会議棟 1 階 102 会議室  
授賞式会場となる東京ビックサイトでは同期間に「エコプロ 2098 環境とエネルギーの未来展」が開催されていた。その会場に、東北から九州・沖縄まで日本各地から受賞者が集まり、授賞式が開催された。授賞式の後、特別賞、審査委員賞の受賞団体より、3 枚の写真を使ったスリーピーストーク形式で活動の紹介があった。子どもから大人まで、そして企業・自治体・NPO・学校などさまざまな人たちが地域で関わり合い、活動している様子が多く紹介された。

5 部門優秀賞の受賞団体は、自由形式のプレゼンテーションで活動を紹介。このプレゼンテーションが最終審査の対象となり、農林水産大臣賞として 1 団体、環境大臣賞として 1 団体が選ばれた。

審査結果の発表、表彰に続いて、IUCN 日本委員会会長 渡辺綱男 審査委員長より「大臣賞に選ばれた 2 つの団体をはじめ、ここに集まっていた全ての皆様の力が一つに集まって、生物多様性を前に進めていけたら素晴らしいことです。そうすることで生物多様性の意識や行動が社会の中でより広がっていけば、この生物多様性アクション大賞の開催が、意味あるものになっていくのだと思います。是非そんな動きがここから湧き上がっていきますように願っています。」と



激励された。

◆環境省発表

<https://www.env.go.jp/press/107511.html>

<https://www.env.go.jp/press/107405.html>

### 1-3. エコプロ 2019 での発表

授賞式翌日の 12 月 6 日（金）には、エコプロ 2019 の会場に特設された「特設ステージ」にて各大臣賞を受賞した 2 団体が活動を発表。生物多様性アクション大賞アンバサダーのさかなクンも登場した。さかなクンが描いた魚の名前を当てる「旬のお魚を食べる」コーナーでは、さかなクンがその日の朝に漁に出て釣ってきた魚を披露しながらクイズを出題！今年は 3 択からの問題で、その場でクイズを考えながらの出題で、会場はとても盛り上がった。

後半は、大臣賞を受賞した団体から活動の発表、CEPA ジャパン代表理事の川延昌弘から、SDGs（持続可能な開発目標）と生物多様性の関わりについてお話があり、来場者の皆さんには SDGs と生物多様性を分かりやすく理解してらえるステージになった。

【日時】2019 年 12 月 6 日（金）13:30—14:15

【場所】東京ビックサイト 第 2 ホール「エコ&SDGs ステージ」

【テーマ】「さかなクンと考える、生物多様性と SDGs」

## 2. 普及啓発

### 2-1. 自然観察会の開催

子どもゆめ基金からの助成を得て、自然観察指導員東京連絡会の協力のもと、自然観察会を開催できた。合計約 50 名の方に自然と都会の中での生物多様性を感じていただくことができた。

●2019 年 11 月 30 日（土）ネイチャーガイドと歩こう！身近な自然発見「秋の木の实、葉っぱを楽しむおべんとう！」参加者 10 名 【場所】都立野川公園

みんなで並べて発表し秋の实りと多様な自然の色合いを楽しんだ。子供たちはお弁当作りがとてもわくわくして楽しそうでした。

[http://cepajapan.org/member\\_blog/2192/](http://cepajapan.org/member_blog/2192/)



●2020年2月24日(月) ネイチャーガイドと歩こう!身近な自然発見「冬を過ごす水鳥やいぎものたち」参加者10名 【場所】都立石神井公園

複数班に分かれて担当指導員がそれぞれについて観察。イラスト入りの鳥のカードを見ながらクイズの答えも考えてみた。ポート池沿いでは、オオバン、カルガモ、カイツブリ、キンクロハジロの集団、オナガガモやマガモも観察。例年より早く暖かくなったので、冬越ししていた水鳥たちはそろそろ北へ帰る時期、数も少なくなっていた。子供たちは双眼鏡で観たり、熱心に発見した鳥をメモ。三宝寺池の水辺観察園では春の草花がたくさん開き、オオイヌノフグリ、ヒメオドリコソウ、春植物のアズマイチゲも観察でき、ナンンホシテントウも出てきていた。池ではオカヨシガモが逆立ちして餌をとる様子が人気。大きなゴイサギ、カワウも数羽見られた。最後は子どもたちと一緒にクイズの答えや今日の発見!を発表してもらい、水鳥のまとめ。お天気も穏やかで暖かく、家族でゆっくり楽しめる観察会となった。

(申し込み14組の家族。新型コロナウイルスの感染予防のため、スタッフ全員マスク着用、特に手洗いなど注意事項を告げて実施した)

[http://cepajapan.org/member\\_blog/2205/](http://cepajapan.org/member_blog/2205/)

●2019年4月7日(日)CEPAさんぽ「春の谷根千、感じて歩こう」参加者2名【場所】根津  
わずか3時間の街歩きでしたが、いろいろな観方でのつながりを見つけて歩くことができた。参加者からも、自然観察だけでなく、街歩きだからこそ見えてくるささやかな自然と、それを大切に  
する人の暮らしがつながってきてよかったとの感想があがった。

[http://cepajapan.org/member\\_blog/2155/](http://cepajapan.org/member_blog/2155/)

## 2. その他

3-1. CEPA ジャパンとして、以下の事業に共催・後援・協力名義の使用を許可した。

### 【共催】

自然観察指導員東京連絡会(NACOT)「みどりの自然観察会」

### 【後援】

### 【協力】

3-2. CEPA ジャパンとして、以下の会合に参画・提言を行った。

### ■参画

- ・公益財団法人日本自然保護協会(NACS-J)に団体会員として加盟
- ・SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワークに参加
- ・生物多様性民間参加パートナーシップへ参加
- ・国連生物多様性の10年日本委員会の委員、運営部会のメンバー
- ・生物多様性ちば企業ネットワークに支援メンバーとして参画

第2号議案 2019年度収支決算案

**正味財産増減計算書**

平成31年4月1日～令和2年3月31日

一般会計		(単位：円)		
科 目	当 年	前 年	増 減	
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
<b>1 経考増減の部</b>				
<b>(1) 経考収益</b>				
① 受取会費	[ 120,000 ]	[ 114,000 ]	[ 6,000 ]	
受 取 会 費	120,000	114,000	6,000	
② 事業収益	[ 5,450,800 ]	[ 6,933,043 ]	[ △ 1,482,243 ]	
受 託 事 業 収 益	5,450,800	6,933,043	△ 1,482,243	
③ 受取助成金	[ 7,964,000 ]	[ 8,887,000 ]	[ △ 923,000 ]	
受 取 助 成 金	7,964,000	8,887,000	△ 923,000	
④ 受取寄付金	[ 108,500 ]	[ 335,890 ]	[ △ 227,390 ]	
受 取 寄 付 金	108,500	335,890	△ 227,390	
⑤ 雑収益	[ 404,878 ]	[ 86,008 ]	[ 318,870 ]	
受 取 利 息	18	8	10	
そ の 他 益	404,860	86,000	318,860	
<b>経 考 収 益 計</b>	<b>14,048,178</b>	<b>16,355,941</b>	<b>△ 2,307,763</b>	
<b>(2) 経考費用</b>				
① 事業費	[ 7,676,597 ]	[ 14,182,810 ]	[ △ 6,506,213 ]	
外 注 費	4,548,000	5,774,400	△ 1,228,400	
荷 造 運 賃	437	77,241	△ 76,804	
活 動 支 援 費	950,000	950,000	0	
広 告 宣 伝 費	211,250	3,559,234	△ 3,347,984	
会 議 交 通 費	145,483	309,324	△ 163,861	
旅 費 交 通 費	508,638	3,204,837	△ 2,698,199	
通 信 費	16,525	23,217	△ 6,692	
消 耗 品 費	3,950	66,317	△ 62,367	
諸 会 費	15,000	15,000	0	
支 払 手 数 料	11,317	23,868	△ 12,551	
支 払 報 酬 料	550,000	0	550,000	
賃 借 料	715,017	174,040	540,977	
租 税 公 課	0	0	0	
保 険 料	5,000	5,332	△ 332	
雑 費	0	0	0	
② 管理費	[ 1,990,350 ]	[ 2,121,646 ]	[ △ 131,296 ]	
外 注 費	1,831,200	1,814,400	16,800	
荷 造 運 賃	7,409	12,807	△ 5,398	
交 際 費	0	0	0	
旅 費 交 通 費	0	1,928	△ 1,928	
通 信 費	49,798	71,934	△ 22,136	
消 耗 品 費	809	114,353	△ 113,544	
支 払 手 数 料	101,134	103,024	△ 1,890	
賃 借 料	0	3,200	△ 3,200	
租 税 公 課	0	0	0	
<b>経 考 費 用 計</b>	<b>9,666,947</b>	<b>16,304,456</b>	<b>△ 6,637,509</b>	
<b>当期経考増減額</b>	<b>4,381,231</b>	<b>51,485</b>	<b>4,329,746</b>	



<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	4,381,231	51,485	4,329,746
法人税、住民税及び事業税	482,200	70,000	412,200
当期一般正味財産増減額	3,899,031	△ 18,515	3,917,546
一般正味財産期首残高	△ 1,774,371	△ 1,755,856	△ 18,515
一般正味財産期末残高	2,124,660	△ 1,774,371	3,899,031
<b>Ⅱ 正味財産期末残高</b>	2,124,660	△ 1,774,371	3,899,031

## 財務諸表に対する注記

### 1. 重要な会計方針

#### (1) 消費税等の会計処理

税込方式

## 貸借対照表

令和2年3月31日現在

科 目	(単位：円)		
	当年	前年	増減
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金預金	2,006,860	311,948	1,694,912
未収入金	600,000	708,351	△ 108,351
<b>流動資産合計</b>	<b>2,606,860</b>	<b>1,020,299</b>	<b>1,586,561</b>
<b>2 固定資産</b>			
<b>固定資産合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>資産合計</b>	<b>2,606,860</b>	<b>1,020,299</b>	<b>1,586,561</b>
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短期借入金	0	2,802,890	△ 2,802,890
未払金	0	0	0
未払法人税等	482,200	70,000	412,200
<b>流動負債合計</b>	<b>482,200</b>	<b>2,872,890</b>	<b>△ 2,390,690</b>
<b>2 固定負債</b>			
<b>固定負債合計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>
<b>負債合計</b>	<b>482,200</b>	<b>2,872,890</b>	<b>△ 2,390,690</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>1 一般正味財産</b>	2,124,660	△ 1,852,591	3,977,251
<b>2 指定正味財産</b>	0	0	0
<b>正味財産合計</b>	<b>2,124,660</b>	<b>△ 1,852,591</b>	<b>3,977,251</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>2,606,860</b>	<b>1,020,299</b>	<b>1,586,561</b>

**財 産 目 録**  
令和2年3月31日現在

(単位：円)

内 訳	金 額		
<b>I 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
普通預金	[ 2,006,860 ]		
三菱UFJ銀行横浜支店	2,006,860		
未収入金	[ 600,000 ]		
受託事業収益未収入金	600,000		
<b>流動資産合計</b>		2,606,860	
<b>2 固定資産</b>			
	[ 0 ]		
<b>固定資産合計</b>		0	
<b>資産合計</b>			2,606,860
<b>II 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短期借入金	[ 0 ]		
運転資金借入	0		
未払金	[ 0 ]		
3月分諸経費	0		
未払法人税等	[ 482,200 ]		
<b>流動負債合計</b>		482,200	
<b>2 固定負債</b>			
	[ 0 ]		
<b>固定負債合計</b>		0	
<b>負債合計</b>			482,200
<b>III 正味財産の部</b>			
<b>正味財産</b>			2,124,660

## 正味財産増減計算書 内訳表

平成31年4月1日～令和2年3月31日

一般会計		(単位：円)		
科 目	公益事業	収益事業	法人合計	
<b>I 一般正味財産増減の部</b>				
<b>1 経常増減の部</b>				
<b>(1) 経常収益</b>				
① 受取会費	[ 120,000 ]	[ 0 ]	[ 120,000 ]	
受 取 会 費	120,000	0	120,000	
② 事業収益	[ 0 ]	[ 5,450,800 ]	[ 5,450,800 ]	
受 託 事 業 収 益	0	5,450,800	5,450,800	
③ 受取助成金	[ 7,964,000 ]	[ 0 ]	[ 7,964,000 ]	
受 取 助 成 金	7,964,000	0	7,964,000	
④ 受取寄付金	[ 108,500 ]	[ 0 ]	[ 108,500 ]	
受 取 寄 付 金	108,500	0	108,500	
⑤ 雑収益	[ 268,540 ]	[ 136,338 ]	[ 404,878 ]	
受 取 利 息	18	0	18	
そ の 他	268,522	136,338	404,860	
経 常 収 益 計	8,461,040	5,587,138	14,048,178	
<b>(2) 経常費用</b>				
① 事業費	[ 4,918,697 ]	[ 2,757,900 ]	[ 7,676,597 ]	
外 注 費	2,682,140	1,863,860	4,546,000	
荷 造 運 賃	258	179	437	
活 動 支 援 金	950,000	0	950,000	
広 告 宣 伝 費	124,638	86,612	211,250	
会 議 費	85,824	59,639	145,463	
旅 費 交 通 費	298,917	207,721	506,638	
通 信 費	9,750	6,775	16,525	
消 耗 品 費	2,331	1,619	3,950	
諸 会 費	8,850	6,150	15,000	
支 払 手 数 料	6,678	4,639	11,317	
支 払 報 酬 料	324,500	225,500	550,000	
賃 借 料	421,861	293,156	715,017	
租 税 公 課	0	0	0	
保 険 料	2,950	2,050	5,000	
雑 費	0	0	0	
② 管理費	[ 1,174,309 ]	[ 816,041 ]	[ 1,990,350 ]	
外 注 費	1,080,408	750,792	1,831,200	
荷 造 運 賃	4,372	3,037	7,409	
旅 費 交 通 費	0	0	0	
通 信 費	0	0	0	
消 耗 品 費	29,381	20,417	49,798	
支 払 手 数 料	478	331	809	
賃 借 料	59,670	41,464	101,134	
経 常 費 用 計	6,093,006	3,573,941	9,666,947	
<b>当期経常増減額</b>	<b>2,368,034</b>	<b>2,013,197</b>	<b>4,381,231</b>	

<b>2 経常外増減の部</b>			
(1) 経常外収益	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	2,368,034	2,013,197	4,381,231
他会計振替額	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	2,368,034	2,013,197	4,381,231
法人税、住民税及び事業税	0	482,200	482,200
当期一般正味財産増減額	2,368,034	1,530,997	3,899,031
一般正味財産期首残高			△ 1,774,371
一般正味財産期末残高			2,124,660
<b>Ⅰ 正味財産期末残高</b>			<b>2,124,660</b>

(注) 事業費のうち各事業に共通して発生するもの及び管理費は、受取助成金と受託事業収益の割合(公益59%、収益41%)により各事業に配分した。

### 監査報告書

一般社団法人 CEPA ジャパン

代表理事 川延 昌弘 殿

私は、平成 31 年 4 月 1 日から令和 2 年 3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

#### 1 監査の方法及びその内容

監事は、理事等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

#### 2 監査意見

##### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実  
は認められません。

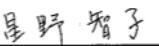

##### (2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべて  
の重要な点において適正に示しているものと認めます。

令和 2 年 5 月 日

一般社団法人 CEPA ジャパン

監事  

監事  



## 第3号議案 第11期（2020年度）事業・活動計画

### **【事業展開方針】 ■SDGs 時代にむけて**

CEPA ジャパンは、2011年創設から目標年であった2020年度を迎える。法人としての基礎固めであった「第1ステージ」から、普及拡大を加速度的に高めていく「第2ステージ」、そして総仕上げとして2020年の最終年に向けて活動を継続して、さらに2030年SDGsの目標年に向けてパワーアップしてきた。本来は前年度と本年度の2年間で、これまでの総決算と次の「国連生態系回復の10年」への橋渡しを進め、有終の美を飾っていく予定であったが、全世界的にコロナ対応を余儀なく求められ、新しい生活様式の中で、新たな方向性を模索していくことを主眼としたい。

### **【今年度の具体的な事業】**

#### **1、生物多様性アクション・フォーラム**

COP15 条約会議に向けて、日本における生物多様性の優良事例を収集するため、これまでの生物多様性アクション大賞集大成としてフォーラムを実施する。

◆主な事業内容：事務局運営、ウェブサイトによる情報発信、記念イベント、など

#### **2、体感型の普及啓発イベント**

「いきものぐらし」を共有し実感できるようなイベント、5つのアクションの事例収集など、様々な形態を検討。都市生活の中で、もっと身近に、生物多様性を感じる事業など展開。

◆主な事業内容：体験型イベント（自然観察会、CEPAさんぽ）、ネットワーク自然観察会 など

#### **3、広報**

さらに情報発信に努め、「いきものぐらし」サイトから「5つのアクション」に基づいた事例収集を行う。

◆主な事業内容：ウェブサイト運営

#### **4、組織運営**

当法人への期待に応えるために、年々充実した財務の更なる安定化を図り、継続的な事務局体制を確立させる。

◆主な事業内容：事務局業務の拡充、事業収入の拡大など

#### **5、他団体との連携・協働**

日本におけるCEPA活動の中核を担う法人として、愛知ターゲットの最終年に向けて、全てのセクターとの連携を図り、これまでにない広報、教育、普及啓発の施策を創発する。

◆主な事業内容：MY行動宣言5つのアクション事務局、IUCN-J、CEPA-IAC、UNDBとの連携等

**第4号議案 2020年度予算案**

事業所名：CEPAジャパン

期間：令和2年4月1日、令和3年3月31日

勘定科目	10期予算	11期予算	増減率	8期決算	9期決算	10期決算
<b>[経常収益]</b>						
受取会費	126,000	120,000	95%	126,000	114,000	120,000
受託事業収益	6,900,000	2,000,000	29%	5,701,900	6,933,043	5,450,800
受取助成金	6,700,000	2,000,000	30%	8,604,382	8,887,000	7,964,000
受取寄付金	200,000	100,000	50%	2,200	335,890	108,500
雑収益	0	0	#DIV/0!	71,014	86,008	404,878
<b>経常収益合計</b>	<b>13,926,000</b>	<b>4,220,000</b>	<b>30%</b>	<b>14,505,496</b>	<b>16,355,941</b>	<b>14,048,178</b>
<b>[経常費用]</b>						
<b>[事業費]</b>						
外注費(事)	5,800,000	1,800,000	31%	6,158,600	5,774,400	4,546,000
荷造運賃(事)	80,000	10,000	13%	72,043	77,241	437
活動支援金(事)	950,000	0	0%	950,000	950,000	950,000
広告宣伝費(事)	2,050,000	200,000	10%	1,141,730	3,559,234	211,250
会議費(事)	200,000	50,000	25%	165,338	309,324	145,463
旅費交通費(事)	2,000,000	500,000	25%	2,887,260	3,204,837	506,638
通信費(事)	30,000	10,000	33%	24,127	23,217	16,525
消耗品費(事)	80,000	10,000	13%	77,214	66,317	3,950
新聞図書費(事)	30,000	10,000	33%	27,000	0	15,000
諸会費(事)	30,000	15,000	50%	25,866	15,000	11,317
支払手数料(事)	340,000	340,000	100%	540,000	23,868	550,000
支払報酬料(事)	240,000	240,000	100%	237,338	0	715,017
賃借料(事)	1,200	0	0%	1,200	174,040	0
保険料(事)	60,000	5,000	8%	53,813	5,332	5,000
<b>事業費計</b>	<b>11,891,200</b>	<b>3,190,000</b>	<b>27%</b>	<b>12,361,529</b>	<b>14,182,810</b>	<b>7,676,597</b>
<b>[管理費]</b>						
外注費(管)	1,820,000	800,000	44%	1,814,400	1,814,400	1,831,200
荷造運賃(管)	18,800	10,000	53%	3,048	12,807	7,409
会議費(管)	0	0	#DIV/0!	0	0	0
旅費交通費(管)	2,000	0	0%	0	1,928	0
通信費(管)	70,000	50,000	71%	55,342	71,934	49,798
消耗品費(管)	30,000	10,000	33%	0	114,353	809
支払手数料(管)	50,000	100,000	200%	101,242	103,024	101,134
賃借料(管)	4,000	0	0%	3,200	3,200	0
租税公課(管)	40,000	60,000	150%	0	0	0
<b>管理費計</b>	<b>2,034,800</b>	<b>1,030,000</b>	<b>51%</b>	<b>1,977,232</b>	<b>2,121,646</b>	<b>1,990,350</b>
<b>経常費用合計</b>	<b>13,926,000</b>	<b>4,220,000</b>	<b>30%</b>	<b>14,338,761</b>	<b>16,304,456</b>	<b>9,666,947</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>#DIV/0!</b>	<b>166,735</b>	<b>51,485</b>	<b>4,381,231</b>

[参考資料]

■シンボル

A

もっと身近に、生物多様性。

B

もっと身近に、  
生物多様性。



C



[CEPA ジャパンのミッション]

- 1、 愛知目標達成のため、生物多様性の普及啓発を推進し  
全国の取り組みを紹介する受け皿となる
- 2、 地域の個性を守るため、各自治体や企業、市民と  
生物多様性の実施計画を推進する
- 3、 持続可能な生産と消費と、Green Economy の理解促進を図り  
新しい取り組みを創出する

[CEPA ジャパンのビジョン]

生物多様性が豊かであり、災害大国でもある国土に生きる市民として、COP10 で採択された「愛知ターゲット」達成のため、日本の市民社会が提案して国連総会で採択された「国連生物多様性の10年」を推進します。

そのために、日本の伝承文化や CEPA プログラムを、生物多様性を理解し自然と共生する心豊かな暮らしを理解できるツールとして活用します。

そして、持続可能な社会の実現を加速させる誰もが学びたくなる「アース・コミュニケーション・センター」を、都市の中心部に世界に通用するエデュケーションセンターとして建設することも目指します。

さらに、先住民族グループ(IIFB)ともグローバルな活動をしながら、2050年には地球上に存在する社会すべてが自然資源のバランスに配慮した幸せな社会となっていることを目指します。